

浜と消費者を繋ぐ女性部活動 —階上の地魚と伝統料理で活性化—

階上漁業協同組合女性部
部長 荒谷 恵子

1. 地域の概要

私たちの住む階上（はしかみ）町は、太平洋岸の最南端に位置し、八戸市、岩手県に隣接した、三戸郡で唯一海のある町である。

海岸線の全長は5.5kmで、海岸の全域が岩礁地帯となっており、春から夏にかけてのヤマセと冬の西風が漁家の生活に大きな影響を与えている。

町のほぼ中央を通る国道45号線沿いにある「道の駅はしかみ」では、同町が「海・山の幸」に恵まれていることもあり、地元特産物の直販所やレストランが毎日買い物客で賑わっている。

また、同町は前沖で獲れる魚介類の消費拡大と観光漁業により一層の漁業振興を図るために、年間を通じて漁業や遊漁船等で多く漁獲されるアイナメを地方名の「アブラメ」として町の魚に制定している（図-1）。



図-1 階上町の位置

(キャラクター:階上町シンボルキャラクター あぶらめくん)

2. 漁業の概要

私たちが所属している階上漁協は、組合員数443人で主に小型定置網、いか釣、刺網、採介藻漁業を営んでいる。

平成27年度の水揚げ量は1,393トン（図-2）、水揚げ金額は6億9,900万円（図-3）となっている。主な魚種はスルメイカ、マダラ、サケ等で水揚げの大半を占め、アワビ、ウニ、ワカメ等の磯根資源も豊かである。

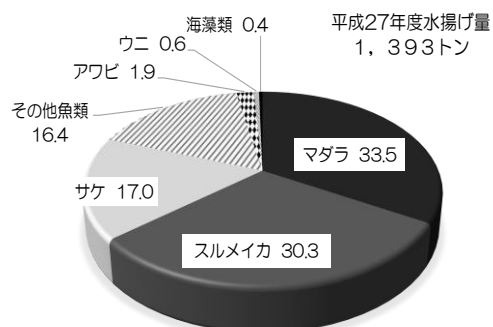


図-2 平成27年度魚種別水揚げ量割合 (%)

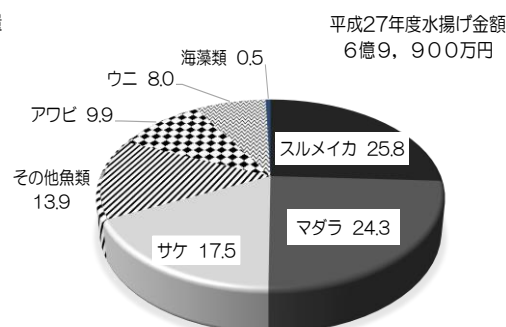


図-3 平成27年度魚種別水揚げ金額割合 (%)

3. 研究グループの組織と運営

漁協女性部は、漁家のくらしを高めるためには女性たちが結集しなければという気運が高まり、関係機関からの支援を得て、昭和 61 年 4 月に結成された。

平成 28 年度の部員数は 11 人で、役員は部長 1 人、副部長 1 人、会計 1 人、監事 1 人で構成されている。

部のモットーは、浜の母ちゃんたちが、楽しく活動していくために部員同士の意見を十分に交換し合うことである。

部の運営費は各種イベントや、加工販売活動の手数料で賄われている。

また、町が策定した「階上町食育推進基本計画」に基づいて組織された、臥牛の郷（がぎゅうのさと）生活研究連絡協議会のメンバーとしての活動も大きなウェイトを占めている。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

(1) 階上町夏の海観光化への参画

昭和 61 年、町が夏の観光客をあてこんだ「第 1 回いちご煮祭り」のイベントを企画し、結成後間もない当部が、2,000 食の「うにとあわびの潮汁(うしおじる)、いちご煮」を提供した。予想だにできなかった 2 万人の人出に悲鳴をあげながらも、一致団結して無事終了できたことが地元関係者に高く評価され、それが部員の大きな励みとなるとともに、活動の起爆剤となった。

中でも、漁業者にとっては“家庭料理であり大したものではない“と思っていた「いちご煮」に対する来場者の反応を目のあたりにしたことは、大変な刺激となった。

(2) 村と町を結ぶ女性部の集いへの参加

女性部を結成した年の 12 月に生活改善グループと八戸市、三戸郡、上北郡の農漁業女性団体、消費者団体合わせて 570 人が一堂に会して「村と町を結ぶ女性部の集い」が開催された。

女性部はこの集いにおいて、漁村女性の立場から「いちご煮祭り」の体験や漁業者の生活の状況を紹介した。この話題提供と、その後の交流会で生産者が提供した手作り加工食品等を試食した消費者の「地元の食材を使った手作り品は安心・安全」という声に、私たち部員も心を大きく揺さぶられ、消費者を巻き込んだ活動の重要性を認識した。

5. 研究・実践活動状況及び成果

(1) 階上町における広域的活動

① 直売所での活動

国道 45 号線沿いにある「道の駅はしかみ」直売所は、海の幸、山の幸に恵まれているということと、階上のそばの手打ち、女性部の手作り菓子等実演コーナーがあるということで長距離運転手などに人気があり、八戸市内や、近くの団地の消費者の台所的な存在となっている。

女性部では、塩蔵ワカメ、乾燥フノリ、塩ウニ等加工品の店頭販売を行っているほか、週 2 回の実演コーナーでは、手作りのよもぎ餅、麦餅などの販売を行っている。

② 臥牛の郷生活研究連絡協議会への参画

町は平成 19 年に「階上町食育推進基本計画」を策定、“広げよう！笑顔の輪 伝えよう！ふるさと階上の味”をスローガンに、行政、地域、関係機関が連携しながら食育に関する取り組みを進めている。

食育推進計画を進めるにあたって、町が郷土食を伝承することを目的とした「臥牛の郷生活研究連絡協議会」を設立し、漁協女性部も協議会のメンバーとして活動を行っている。

活動内容は、年 2 回の伝統料理講習会と町民文化祭での伝統料理の展示である。このほか、協議会では、昔からふるさとに伝えられてきた伝統料理を記録として残し、後世に伝えていくため、平成 21 年に伝統料理集「階上町の伝統料理」を作成しており、女性部もその一翼を担っている（写真-1）。



写真-1 伝統料理の冊子

(2) 女性部独自の取組

① 水産教室への協力

昭和 44 年から行われている地元小学校を対象としたフノリ採り体験への協力はそれぞれが一保護者として協力していたものを女性部結成後は漁業者の立場から協力している。採られたフノリを、女性部が加工用原料として買い取り、学校側はその代金を図書などの購入に充てている（写真-2）。



写真-2 フノリ採り体験への協力

② 農業女性グループとの交流

V i C・ウーマン（農山漁村女性リーダー）やグリーン・ツーリズムを活用した J A 女性グループとの交流では、ウニ採り期間中 2 団体限定で、ウニの殻むき体験、いちご煮などの伝統料理を振る舞いながらの情報交換を行っている（写真-3、4）。



写真-3 農業女性部グループとの交流
（ウニ殻むき体験）



写真-4 伝統料理の振る舞い

③加工への取組

結成当時は県水産物加工研究所（現：（地独）青森県産業技術センター食品総合研究所）、八戸水産事務所の指導を受けながら塩ウニやサケの加工に取り組んでいたが、部員たちから販売活動に本腰を入りたい、そのためには衛生面を考慮した「独立した加工施設が欲しい」という強い要望が出され、平成2年に町の援助により加工場を建設し、加工品づくりに意欲的に取り組んできた。



写真-5 加工施設での作業

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、津波で加工場が壊滅し、乾燥機や冷蔵庫などの加工設備および震災前に採捕し保存していたフノリがすべて駄目になるという大きなアクシデントに見舞われたが、階上町や漁協の補助により施設を整備し、同年12月には加工を再開した。また、震災を機に女性部の傘下でありながら、別々に活動していた加工部との組織体制を見直したことにより加工品目が増加し、現在は、おみそ汁の具、乾燥フノリ、塩蔵ワカメなど9品目を製造販売しており、売り上げは500～600万円を維持（図-4）、加工品の中で一番人気はおみそ汁の具となっている（図-5）。

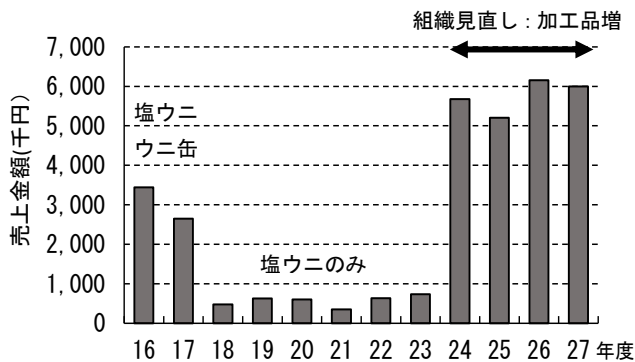


図-4 加工品売上の推移

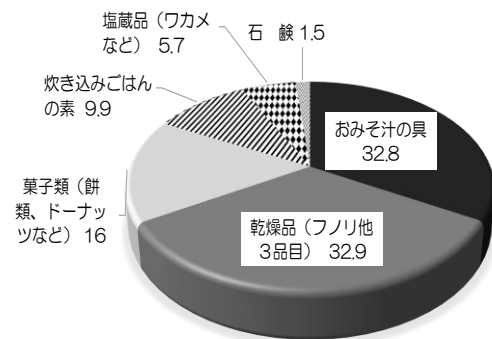


図-5 加工品目別売上比率 (%)
(平成27年度)

④漁師の家庭に伝わる万能調味料「かぜ水（みず）」でさらなる活性化

三陸地方の名産品の中でも人気が高く、たくさんの人に愛され続けているウニの加工品である「塩ウニ」の製造過程で副産物として発生するウニのエキスを「かぜ水」と呼んでいる。

階上町の漁師の家庭でも万能調味料として昔から使われてきた。この「かぜ水」は、無添加食品のため大量生産ができず、本来は家庭で使用する



写真-6 万能調味料「かぜ水」

分だけを保存するため、市場に出回ることにはなかったが、県の情報サイトや新聞で紹介され、煮物、汁物やパスタなどの洋食に使えることで密かなブームとなっている（写真-6）。

この「かぜ水」を一般消費者に伝えたいという思いから、過去に女性部で製造・販売を手掛けたことがあったが、経費面、保管場所の問題で断念した経緯がある。現在は、女性部長が個人で製造し、数量限定で道の駅や階上町わっせ交流センターで販売しているが、将来は女性部での製造・販売を目指している。

⑤各種イベントへの参画

例年2日間で4万人が来場する階上町の夏の最大イベント「はしかみ いちご煮祭り」は平成28年で30周年を迎えた。女性部は結成直後の第1回から参画し、20年間伝統料理いちご煮の普及に努めてきた。平成19年からはいちご煮を町内の飲食店に引き継ぎ、女性部は漁協店舗でウニやアワビ・加工品等の販売を行っている。

さらに、町では夏のイベントに続く冬のイベントを企画し、ボランティア組織「階上売り込み隊」を結成して、冬に獲れる地魚ドンコ（エゾイソアイナメ）をメインとした「どんこ祭り」を平成22年から開催している。今年で8回目を迎え、開催当初は300人程度であったが、現在は約1,000人が来場するほどの盛況で、年々知名度が上がり、今後が期待されるイベントとなっている。これらの2大イベントや町内の各種イベントへの参画により階上の地魚や伝統料理を消費者へ伝えることが、部員のさらなる活動意欲の向上にも繋がっている（写真-7、表-1）。



写真-7 いちご煮祭りなどで伝統料理提供

表 町内イベントへの参加状況

イベント名	開催日	備考
臥牛山まつり	6月上旬	
はしかみ いちご煮祭り	7月下旬	
階上町民文化祭	10月下旬～11月上旬	臥牛の郷生活研究連絡協議会の構成員として参加
階上どんこ祭り	11月中旬	

6. 波及効果

私たち、階上漁協女性部は、結成当初から関係団体、関係機関の協力と連携のもとに、消費者を含めた町外の仲間たちと共に直売活動に取り組み、着実に歩んできました。

他からの経済的支援を受けることなく、メンバーで自主的に運営してきた海・山の母ちゃんたちの直売活動は、県内はもちろん全国的にも先駆けて取り組んだ農漁業の女性起業活動として高く評価されており、私たち女性部の誇りとなっている。

私たちは、常に漁業振興のための魚食普及や地域活性化の一助としての姿勢で取り組みを重ねてきたこれらの活動が、新しい漁家生活の発展に貢献してきたものと自負している。

7. 今後の課題や計画と問題点

現在の産直の取り組みは、最低賃金程度の日当で行われており、利益追求ではなく、人との信頼関係を第一に考えた活動である。

今後は、これらの活動がさらに付加価値を生むような、地場の資源を生かした商品づくりを心掛けていきたいと考えている。また、消費者に対する沿岸漁業への理解を深め、漁業者と消費者が共に育てる漁業を目指していきたいとも考えている。

一方で、女性部の部員数は高齢を理由にした退部による減少が懸念されており、若い世代の加入をさらに進めていく必要がある。幅広い世代の部員が交流することで、さらに新しい取り組みや地域に根差した活動ができるものと考えている。

現在、町では浜の活性化を図るため、「仮称：ハマの駅」建設計画が進められている（図-6）。この施設は近隣市町村を含めた地域全体の水産業の振興および地域活性化を目的として、漁村特有の新鮮な魚介類等の提供のほか、加工作業所、地域水産物普及施設（加工品や郷土料理の展示および販売提供等）、漁業体験施設等が設けられる予定であり、今後は、この施設を女性部の活動拠点として有効活用していきたいと考えている。



図-6 「仮称：ハマの駅」建設計画図
(実際の建設計画とは異なる)

階上町シンボルキャラクター はしかみ キッズ

